

光明寺絵系図について

The Pictorial Genealogy Transmitted in Kōmyōji Temple

西口順子

一、はじめに

十四世紀前半に仏光寺系の寺院で製作された名帳・絵系図は十五世紀初頭に最盛期を迎え、仏光寺の教線は、近畿以西、とくに山陰・山陽地方に大きく伸びたと言われている。教団の繁栄は、まさにこの名帳・絵系図による活動がもたらしたといっても過言ではない。

絵系図は、最初に了源と了明尼夫妻が描かれ、以下、向き合う形で門弟（または門徒）の肖像を、上段に僧形、下段に尼形で順次描かれ、朱線でないである。多くの絵系図には巻頭に「序題」があつて、親鸞に始まる真宗がどのように継承され、絵系図に描かれる門徒につらなっているかを説明し、門徒たちが信心を正しく受け継ぐよう誠めて結んでいる。平松令三氏によれば、肖像画

付きの門徒団名簿というべきもので、同信者の肖像を連ねることによって門徒集団の連帯意識を高めようとい図したものであったとされている。

ところで、絵系図は、時代が下るにしたがつて寺絵系図（任職相承絵系図）と、門徒絵系図へと分離する傾向を見せはしめる。

寺絵系図は、了源・了明尼に続いて開基像と以後の任職を描いている。門徒絵系図は、地域により形式は異なるが、卷子仕立て又は一枚に、夫婦あるいは単一で肖像を描き、絵像のかたわらに法名・俗名・在地名が記入される。十六世紀初頭には生前と没後が混在し、没年月日を記入するようになり、絵系図の過去帳化が進行するが、さらに時代が下ると、一列の座像とか、夫と妻が相対して描かれたり、あるいは一枚ずつの上下になり、彩色絵像から木版絵像になっていく場合もある。

初期の絵系図については、仏光寺本山に所蔵するものをはじめ、十五例が知られている。初期絵系図の研究は、平松氏による調査・研究行以後急速に進展した²⁾。しかし、中世後期以後の絵系図については、研究者の間で注目されているにもかかわらず、部分的に調査されてはいるが、数量が膨大なためほとんど未調査である³⁾。

滋賀県には、湖東地域は光明寺（蒲生郡竜王町川上）・妙楽寺（能登川町伊庭、本願寺派）、湖北地域には光源寺（東浅井郡湖北町馬渡）、光照寺（湖北町津里）、光福寺（浅井町野瀬）に、中世後期から近世の膨大な量の絵系図を所蔵する。この内妙楽寺・光源寺・光福寺では現在も製作を継続し、盆行事に使用されている。

本稿は、一九九二年から予備調査を開始し、現在も続行中の湖東・湖北地域絵系図中、滋賀県蒲生郡竜王町川上光明寺絵系図と絵系図関連寺院調査の概要である。

竜王町は、北は日野川を隔てて近江八幡市に、東は八日市市と、南に続く水田と丘陵地で蒲生町に接し、南は甲賀郡水口町・甲西町に、西は鏡山山地で野洲郡野洲町に隣接する米作地帯である。

光明寺は仏光寺六坊の一である奥坊（教音院）の第三世空寂がこの地に移って創建したものである。十五世紀初頭の製作とされる光明本尊と絵系図を所蔵する。寺の歴史と住職の歴代については、史料はほとんど残っていないが、寺絵系図に該当する「当寺」に住職歴代の名が記されるほか、昭和十二年に改築の際の棟札に

よって概略がわかる⁴⁾。棟札の全文をあげておくと、

抑も当寺は真宗仏光寺第七代中興了源上人の開基にして、直弟光円坊これを承け、光鎮より空寂の時に至りて、恩免を蒙りて斯地に移住し、一字を建立せり。それより以来、源妙性円、蓮性、良空、蓮覚、性願、一乘、乘円、性源、願明、洞真、教翁、教意、數文、速成、貞寿尼、光澤覺澤、井手玉川寺、円超、覚照を経て現住也。実に現本堂は永和年代第一世空寂の建築にして、其後元禄八年五月中旬第十三世第十四世教翁教意の時、向拝むきの大改築を見、文政の頃第十八世貞寿尼、光澤の時、浅小井小西九兵衛其他の有志の助力を得て屋根西側の破損を改修し、明治十三年世に鳥とまらずの屋根を五尺八寸切下大工川善太郎兵衛八幡金三百三十円也一重と成し、殆ど開きの松茸の如き恰好にして、棟木以下地張を除く外全部破損して危険極り無く、昭和十二年の屋根向其他大改築に至れり

南無阿弥陀仏

先住 第二十世 釈覚照
 現住 第二十一世 照信
 第二十二世 照雄
 照文
 良将

とあり、本堂改築については元禄・文政・明治・昭和の四度にわたって行なわれたことと、住職歴代はほぼ確認できる。元禄の改築は、本堂の瓦に「元禄八年八幡北庄 瓦師仁兵衛」の銘がある。



①光明絵系図筆頭（了源・了明）



②童形（政所谷）



③俗体男性像（西院）



④俗体女性像（雑）



⑤夫婦対座（僧尾）



⑥常信寺開基（夫婦対座）

歴代のうち洞真までは当寺絵系図によって判明している。なお、門徒分布は、明治期には川上、馬淵村新巻、新在家、六枚橋、信濃、弓削、林で、現在もほとんど変化していないという。

二、絵系図の概要

光明寺絵系図は、大別すると室町〜江戸時代の寺絵系図（住職相承系図）と、同時代の地域別の門徒絵系図に分かれる。この絵系図には本来あるべきはずの序題がない。いつの頃か欠落したものであろうが、当初は一体のものとして本山仏光寺で製作し、光明寺に保管され、道場主とその門徒が加えられていったものである。紙本で卷子仕立てになっており、絵像はすべて同筆ではなく年代によって描き手が異なる。大人は俗形の男女それぞれ一点を除き僧形であるが、子供たちは美しい晴れ着姿で描かれている。中近世の門徒絵系図の中でも美術的にも優れ、在京の絵師の手になったものと考えられる。ただし、継ぎ目の糊剥がれや破損・汚損のひどい部分がある。現在の形は、前任職のときに散逸を恐れ整理・復元されたものであるが、断簡も多く不完全で復元作業はかなりの時間を要すると思われる。破損部分については、使用済みの帳簿や新聞紙などで裏打ちがしてあるが、そのためかえって破損が進行する危険もあり、早急に修復保存処置を講じる必要がある。

写真撮影は前任職によって復元されたものに従い、断簡、不明分は「雑」として一括撮影を行なった。以下、フィルム番号に従って簡単に紹介しておきたい。

①当寺《フィルム番号B111〜40、B211〜27、全長二、七〇七、〇センチ、A412〜5、全長二〇九、〇センチ》

通規の絵系図と同様に、了源（建武二年十二月八日没）・了明夫妻にはじまり、当寺開基光円（元弘元年六月二十三日没）、光鎮（康安元年二月二十六日没）・真妙夫妻、川上第一世空寂・妙真夫妻・源妙（川上第二世）・専妙夫妻と続いている。「当寺」は平松氏によると、仏光寺本山の門前にある奥坊教音院であろう、とされている⁵⁾。開基は高円（光明寺絵系図では光円）で、京都西院に創建したと伝えるが、了源が仏光寺を汁谷竹中庄に移したとき、西院から移転し、天正十四年（一五八六）の本山移転にもなって現在地に移ったという。了源・光円につらなる光鎮・空寂系の光明寺の寺絵系図であるが、系譜につらなる門徒の地域の人びとも描かれており、地域別絵系図と大部分が重なっている。「当寺」と地域別の絵系図との関係は今のところ明らかではないが、あるいは「当寺」は直系門徒のみを描き、門徒の増加により、在地門徒は別に描かれるようになったものであろうか。絵系図は川上第十世性源の没年天正二年（一五七四）が一応の下限となっている。《A412〜5》は、天正二年から慶長十八年（一六一三）までで、「河上光明寺洞真・洞真子息定厳」の名が見え、寺絵系図につながるも

のと判断できる。記載地名は、カハカミ(川上)のほか、ウエハ
タケ(上島)・オウツ(大津)・スエ(須恵)・ヨコセキ(横関)・
ツタ(津田)・ヤマノ上(山之上)・サキイン(西院)・ハシモト(橋
本)・タナカ(田中)・ヌカツカ・ヲチノタウ・タテハラ(蓼原)
・シルタニ(汁谷)・坂本・ヘラカサキ・ニシノオカ・マトハ・
アワツ(粟津)・クルマオウチ(車大路)・ニシノ京・サインタネ
ケ・西キソカトノ(西院葛野)・シナノ村(信濃)・木村・カワヘ
(川辺)・林村・アラマキ・浄土寺・播磨僧尾・竹中・西ヲ・タ
タツシ・中村・ニシキタ・ナカムラユヤ・ナカヤマ・キツ・ナカ
ヲシモウラ・サハ・キサト・ヲカ・キツハタなどである。このう
ち、横関・津田・須恵・田中・木村・西院・粟津・播磨僧尾は地
域別絵系図がある。

西 ②粟津《フィルム番号A11116、全長七三六、七センチ》

大津市粟津。琵琶湖の最南端にある地域である。了源は近江、
伊勢・伊賀・遠江・三河・尾張の各地を伝道したと伝えられてお
り、大津市には、西ノ庄法伝寺(延元年中・一三三六〜四〇)、法伝の
開基、粟津正法寺(了源の二男信了の開基と伝える)など、了源の弟
子たちの開いた寺も多く、十四世紀前半には仏光寺の勢力がひろ
まっていた。したがって光鎮・空寂系の門徒も多数存在したと考
えられる。絵系図には明応六年(一四九七)から寛永十三年(一六
三六)までが描かれている。記載地名は、粟津のほか、粟津西庄
・車オウチ(車大路)・大津東ノ庄・アブラノ小路である。現在、

仏光寺派寺院は数カ寺あるが、未調査である。

③西院《フィルム番号A111737・A21116、全長一、〇八七、七
センチ、A419、全長六三、七センチ、A41414、全長三三八、六セ
ンチ》

京都市右京区西院。絵系図には明応八年(一四九九)から寛永
六年(一六二九)まで、《A419・14121》は永正九年(一五二二)
から寛永二年(一六二五)までが描かれている。記載地名は、西
院のほか、モロマチ・クルマオチ(またはクルマオウチ)・マサイ
ケ・宇川・ウエハタケ・西院南庄・新在家・北庄・カトノ・タテ
クラ・テラノウチ、《A419》はウエハタケ、《A41414121》
は北庄・南・南庄奥町・イワノツチ・新在家・タテクラ・西七条
である。現在、仏光寺派寺院は存在しない。光明寺絵系図中唯一
の男性の俗体像「道尊」(A1131)が描かれている。年号は不明
であるが、右隣の宗安に「元和三年」とあり、同年代かと考えら
れる。

④浅小井《フィルム番号A21714、全長三三〇、六センチ、A5115、
二八、四センチ》

近江八幡市浅小井。絵系図には天正四年(一五七六)から寛永
七年(一六三〇)まで描かれている。記載地名は、浅小井のほか、
東村・クラタテである。光蘭院所蔵の慶長四年『御影堂作事之使
日記』中に銀子渡方、奥坊分として、慶長三年四月二日項に、「拾
五匁七分五リン、飯米五十式人半、大工、此内三拾工、浅小井弥

左衛門報謝也」同年五月二日項に、「六匁、三月十三日ヨリ廿三日マテ大工廿工ノ飯米作料ハ報謝アサコイ弥左衛門」と見える。⁷⁾ また、⑨「僧尾」中、釈道祐(C1125)の俗名を「あさこい治介」とする。現在、浅小井には仏性寺がある。

⑤川守《フィルム番号A2115〜26、全長五〇三、六センチ》

竜王町川守。絵系図には文龜二年(一五〇二)から寛文元年(一六六二)までが描かれている。記載地名は、川守のほか、大房・津田・今在家・ヒラキ・二条半蔵町・林である。現在、川守には西光寺、林には常信寺がある。

⑥木村《フィルム番号A2128〜35・A311〜7、全長七二四、四センチ》

蒲生町大字木村。竜王町と隣接している。絵系図には天正八年(一五八〇)から正保三年(一六四六)までが描かれている。記載地名は木村のみ。現在、木村には長徳寺がある。

⑦大房・津田《フィルム番号B311〜27、全長九九七、〇センチ、A4130、六三、五センチ》

近江八幡市大房町・南津田町。絵系図には明応二年(一四九三)から天正二十年(文祿元年、一五九二)まで、《A4130》には大永二年(一五三二)から天文四年(一五三五)までが描かれている。記載地名は大房・津田のほか、津田塚越・ツタフナキ・サカヒである。現在、大房には蓮光寺、南津田には正覚寺がある。

⑧政所谷《フィルム番号B3128〜40、B411〜27、全長一、四九七、

五センチ》

神崎郡永源寺町政所・杠葉尾・中畑付近。竜王町とは隣接していない。鈴鹿山脈の滋賀県側のふもとで、三重県に通じる八風街道に沿って点在する村であり、中近世には交通の要衝であった。⁸⁾

了源は伊賀・伊勢に伝道したところから、伊勢に通じる街道のひとつとして仏光寺派が勢力を伸ばしていたかと思われる。絵系図には明応二年(一四九三)から寛文五年(一六六五)までが描かれている。記載地名は、政所谷のほか、イツリハウ(杠葉尾)・イツリホウ上ノ・ウヘテ・コナカハタ・マハリミチ・西町・ハヤシ・中畑村・コウ屋・道辻・ムマノマヘ・道場・道辻・ヘビ谷・下出・谷川・平北ノマヘ・フロノサカ・マトハ・トチノキ・平地・セト・ウエツヲなどである。先にあげた『御影堂作事之使日記』銀子渡方、奥坊分として、慶長三年正月十三日項に、「三斗、此銀子四匁式分八リン、政所手間十人手間報謝大工廿工」とみえている。現在、政所には光徳寺、杠葉尾には光林寺がある。

⑨僧尾《フィルム番号C111〜34、C211〜36、C311〜16、全長三、一七三、五センチ、A417・27、一〇七、五センチ》

神戸市北区淡河町僧尾。なぜ「僧尾」が入っているのかは不明である。僧尾には享祿三年(一五三〇)もしくは享祿年間の開基と伝える寺があり、⁹⁾ 絵系図には延徳四年(明応元、一四九二)から天和二年(一六八二)までが描かれているから、開基年代とはほぼ前後する。記載地名は、北僧尾・南僧尾のほか、ヨカタ・竹中・

下竹中・西ヲ・中西・中尾・中尾下浦・大西・小南・大屋・大屋
西・上カイチ・カシマ・南・辻・東屋・竹内・湯屋ノ谷・湯屋ノ
上・ミミワ・杉村・ホウネンカイチ・池ノ上・正中平ノ井・木谷
・道ノツシ・フナヤ・ツチヲ・ヨカワ・いなみ・キツ・マツオ・
西ウラ・ヨコヲ・初地開・ヒライ・上ノ境内・中僧尾・中村・西
北・北カイチで、僧尾を中心とした地域である。《A4-7》は
天正十一年（一五八三）から寛永七年（一六三〇）までで、北僧尾
・東ウラの地名がある。《A4-27》は延宝五年（一六七七）で、

「北僧尾村光善寺門下」の記載がある。絵系図中に「浅小井」「江
洲山上衆梅溪」の地名がみえており、光明寺とのかかわりを思わ
順せる。また、妙金（C1-31）・妙永・妙秋・浄春・妙清（C3-
14-16）はいずれも北僧尾村光徳寺（光得寺）門下、妙善（C3-16）
西・妙□・妙林（A4-27）は光善寺門下、妙円（C2-25）は南僧
尾村高雲寺、了雲（C3-12）は極楽寺門下、などのように寺名
を記すものがある。現在、北僧尾には光善寺、光徳寺、南僧尾に
は極楽寺、慶福寺、長福寺が存在するが未調査である。

⑩田中《フィルム番号C3-17-36、C4-1-6、全長九二四、〇センチ》

竜王町田中。絵系図には永正二年（一五〇五）から寛永六年（一
六二九）までが描かれている。記載地名はタナカのほか、山ノ上
・ツタ・林村・日野・庄・河守（川守）がある。現在、田中には
浄満寺、林村には常信寺がある。なお、道海（C3-20）は「天

正四年五月二日没、打死也」と見えている。

⑪横関《フィルム番号C4-7-14、全長三三四、八センチ》

竜王町横関。絵系図には長享元年（一四八七）から寛永十五年（一
六八三）までが描かれている。記載地名はヨコセキ（横関）のほか、
田口・ニフ寺・スエ（須恵）・ヲサキ・ニハ中川等である。⑫須
恵とは分かれているが、絵は「須恵」が多く、あるいは一連のも
のであったかもしれない。現在、西横関に光円寺、鏡には大願寺
がある。

⑫須恵《フィルム番号C4-15-25、全長三八〇、八センチ》

竜王町須恵。絵系図には元和二年（一六一六）から寛永十五年（一
六三八）までが描かれている。記載地名はスエ・横関のほか、鏡
・政所辻がある。政所辻については不明である。現在、須恵には
栄勝寺がある。

⑬雑《フィルム番号A4-1-35、A5-1-17、全長八二六、四センチ》

人名・年月日は判明するが、地名不明のもの、断簡が混在する。
享保二年（一七一七）の絵系図があり、川上絵系図の最下限である。
なお、《A5-13-14》は天正十年（一五八二）〜慶長五年（一
六〇〇）、トハ・カカミ・ヨコセキの地名が見えるが、⑪に入れる
べきものかは不明。《A5-2》は光明寺絵系図中唯一の絹本で
ある。あるいは別のものであったのを、前任職が整理された時点
で絵系図に入れたものであろうか。人名・地名は記載されず、髪
を長く垂らした小袖姿の俗体の女性で、年代は不明であるが戦国

期をあまり下らないものと思われる。

三、絵系図関連地域の寺院

光明寺絵系図記載の地域の大部分は、現在仏光寺派寺院が存在している。とくに竜王町は町域全体にわたり、仏光寺派が多数を占めている。これらの寺院が、絵系図に関連するかどうかについては不明であるが、一応関連寺院と考えて調査対象とし、竜王町は網羅的に、近江八幡市・その他については重点的に調査を行うこととし、一九九三年十二月、九四年八月に実施した。未調査寺院もあるが、現時点で調査した寺院について述べてみたい。

調査は、①村の戸数と対象寺院および他宗寺院と門徒数、②由緒・堂舎・住職歴代^⑩・③法宝物（文書・記録・絵画等）、④寺院の年中行事および寺院がかかわる村の年中行事、⑤葬制・墓制、⑥講について、⑦川上光明寺との関係、⑧その他の項目についての聞き取りを行ない、文書・記録・絵画資料は写真撮影を行なった。ここでは紙数の関係上、項目①・②・③から主要なもののみに限定しておくたい。

(一) 常信寺（竜王町大字林、地名は絵系図①・⑤）

①林の戸数は現在約九〇戸であるが、元は八〇戸くらいであった。寺院は常信寺（通称上の寺）、正行寺（中の寺、木辺派）、興照寺（下の寺、大谷派）がある。

②開基は元和七年（一六二二）、村田伝兵衛夫婦（村田氏は現存）と伝える。傳兵衛は武智光秀親子とともに城を放火、若君を伴い林村に来て若君の死後農家に下ったという。佐々木源義秀公の嫡男の義郷舎弟義高の息男を弔うため、居館（村田館）の巽方に一字を建立、往古は真言宗であったが、後仏光寺派道場となる。

住職系図はないが過去帳によれば「村田傳兵衛 法名源齋」、「長玄 宝永三年十二月廿四日 村田隆伯」、「祐玄 延宝九年十一月八日 同（白井三治）」、「浄意 寛文二年十一月九日 白井三治」などとみえる。一時無住であった。現在は四代目である。寺にヤツシヤリ（那舍利）サンとよばれる木仏（日野川から流れてきた仏、上の寺で守ってはしいとのお告げで管理）があり、正月に小学生が背負って歩く行事がある。村内の大日堂は常信寺が護持し、老人会が主になって管理している。春秋二回、正月は三日間、常信寺から朝夕にオマイリする。四日をダンゴタテといい、下に牛の絵を描いた紙（半紙横割り大）に仏サンを彫った印（牛玉宝印か）を押し、柳の枝の先に火の印を押ししたものをはさんでお参りの人に渡す、という。

③法宝物

- 上宮太子御影（裏書なし）
- 三朝高祖真影（元禄十三年の裏書あり）
- 開基絵像

寛永十七庚辰歳

釈源齋

五月初四日去

寛永八辛未歲

釈妙久

七月晦日去

この開基絵像は夫婦対座型で、光明寺絵系図中、江戸初期に夫婦対座型のものがあり、同型であることが注目される。

(二) 西光寺 (竜王町大字川守、地名は絵系図⑤)

①川守の戸数は約六十戸、寺院は東光寺 (本願寺派)・竜王寺 (天台宗) がある。

②元は天台宗であつたらしいが貞享五年 (元禄元・一六八八) に教全が中興し、寛政七年 (一七九五) 南仲のとき本堂が再建されたと伝える。所蔵の阿弥陀仏絵像は裏書はないが、様式からみて江戸時代初期かと思われ、貞享以前に道場として存在した可能性がある。本堂に廿四孝の欄間がある。

③法宝物

○阿弥陀仏絵像 (江戸時代初期か)

○上宮太子御影 (裏書なし。田中浄満寺と類似。元禄頃か)

○三朝高祖真影 (同)

○親鸞聖人伝絵《以下絵伝と略称》(四幅)「二卷裏書、二、四卷省略」

天保四年

仏光寺釈随念 (花押)

三月上旬

汁谷開山親鸞聖人伝絵 江州蒲生郡川守村西光寺什物

也、

願主 釈円澄

寄進人 中嶋利

(三) 浄満寺 (竜王町田中、地名は絵系図①・⑩)

①田中の戸数は約五〇戸、第二次大戦後八〇戸が新興宗教に変わったが元は門徒であった。寺院は浄満寺のみである。

②延文元年 (一三五六) 明正の中興 (『竜王町史』) と伝えるも不明。

『仏光寺事典』によれば、寛延三年 (一七五〇) 沙門信流の創建とも伝える。元は天台宗。過去帳はあるが、住職名はない。厨子に尾州様 (尾張藩主) の位牌があり、正月に開帳する。境内に接して八幡社、毘沙門堂があり、薬師如来像を安置する。薬師堂では十月の秋の取り入れ終了後に日待ちを行なう。綾戸の神主 (小野サシ) がきて外で湯を炊いて神事を行う。百灯会という。

③法宝物

○絵伝 (四幅)「二卷裏書」

(印判)

仏光寺釈 寛如 (花押)

宝曆十二年七月下旬

(印判)

善信聖人伝絵 江州蒲生郡田中村

浄満寺什物也

(印判)

四幅之内卷卷

寄進人 妙正

○三朝高祖真影〔裏書〕

常閑
淨願
願主積 隆山

(印判) 随如
仏光寺積 □□ (花押)

元禄拾一年弥生中旬書之

三朝高祖真影

江州蒲生郡田中村
淨満寺什物也

(印判) 随如
願主積 元瑞

○上宮太子御影〔裏書〕

(印判) 随如
仏光寺積 □□ (花押)
元禄拾一年弥生中旬書之

上宮太子御影

(印判) 随如
願主積 元瑞

(四) 本誓寺 (竜王町小口、絵系図になし)

① 村の戸数は約一〇〇戸、寺院は本誓寺、善法寺(浄土宗知恩院派)、観音寺(妙心寺派、牟礼山)は村持ち。不動さんがある。

② 元は三論宗、奈良元興寺道昭の草創と伝えるも不明。南都系の寺である。のち天台宗になり、仏光寺派に転宗している。元は牟

礼山にあった。いつ頃移転したか不明。昔は真気神社と一体で、元の本尊も神社である。仏光寺派になったのは建暦二年(一二二二)頃で、光誓の中興と伝える。境内に鎌倉後期の宝篋印塔がある。

(五) 円覚寺 (竜王町大字七里、絵系図になし)

① 七里の戸数は約五三〇五四戸、近年は約百戸くらいに増加している。寺院は円覚寺のみである。

② 開基は了源の弟子了長(建武四年・一二三三)と伝え、寛永八年(一六三二)寺号を許されたという。住職歴代は、二世円証院了傳(延享三年没)、宣暢院积義傳(明和三年没)・仏性院了因(安永七年没)・慈照院积宗賢(寛政六年没(以下略)。本堂は安政四年(一八五七)の再建である。

③ 法宝物

○上宮太子御影〔裏書〕

(印判) 随如
仏光寺積 □□

元禄十三年臘月十二日

上宮太子御影

(印判) 随如
願主積 了伝

○三朝高祖真影

(印判) 随如 (花押)
仏光寺積

元禄十三年臘月十二日

弓削村正福寺常住物也

(印判) 願主 惣門徒中

○上宮太子御影(裏書なし)
○前任随念上人真影「裏書」

南坊下江州願主弓削邑

正福寺什物也

願主 積慶蒼
寄進 惣門徒中

○絵伝(四幅)「一巻裏書」

仏光寺積随念(花押)

文政十年九月上旬

汁谷開山親鸞聖人伝絵 南坊下

江州蒲生郡弓削邑

正福寺什物也

願主 積慶住

四幅之内一卷

(八) 光円寺(竜王町大字西横関、地名は絵系図①・⑩)

①西横関の戸数は約五二戸、寺院は光円寺、浄泉寺(浄土宗、その他金光教)、天理教、日蓮宗の檀家がある。

②開基は不明。住職歴代については「関川家代々過去帳」によると、鳳幢(享保三年没)・貞玄(養母)・正益(馬渡仏願寺正円次男)

・正温(撰津難波超願寺円琳次男)・正恵(以下略)。万延二年(一八六一)に堂舎が再建されている。

境内に権現堂と呼ぶ祠があり、青年団が護持している。一尺八

寸のカノンサン(子安観音)をまつり、妊婦は鈴に吊ってある古い腹帯を貰って、新しい腹帯をかける風習がある。

③法宝物

○三朝高祖真影「裏書」

(印判) 随如 花押
仏光寺積

正 三年十月下旬

(印判) 三朝高祖真影 坊手次 江州蒲生郡

桐原郷横関村

(印判) 願主 積 長伝

○上宮太子御影「裏書」

(印判) 願主 積 長伝

上宮太子御影

(九) 大願寺(蒲生郡竜王町大字鏡、地名は絵系図⑩)

①鏡村の戸数は約一一八戸、寺院は大願寺、真照寺(天台宗)がある。

②もと通称今王寺にあったという。宝永年間(一七〇四〜一七二〇)円智の時に仏光寺派に帰依し、寺号を許されたという。文化十四年

(一八一七)焼失し、天保十年(一八三九)再建された。住職歴代は、円智(寛保二年没)・円暁・円空・円乘・義瑞・智成(享和三

年没)(以下略)である。

③法宝物

○三朝高祖真影〔裏書〕

(印判) 仏光寺積 随如(花押)

(印判) 三朝高祖真影

享 □保六年六月四日

奥坊下江州蒲生郡
鏡村大願寺什物也

(印判) 願主積 円智

○親鸞絵像

(印判) 仏光寺積 随如(花押)

宝永七年二月下旬書之

(印判) 汁谷親鸞聖人御影 江州蒲生郡鏡村大願寺
常住物也

(印判) 願主積 円智

(十) 正覚寺(近江八幡市南津田町、地名は絵系図①・⑦)

①南津田は約一三八戸、寺院は正覚寺、他に順念寺(大谷派)、真念寺(大谷派)がある。

②応永三年(一三九六)教善の開基、寛永二年(一六二五)円西の時に親鸞御影下付と伝える。正徳三年(一七二三)本堂建立、享保九年(一七二四)本堂焼失、同十三年再建されている。

③法宝物

○三朝高祖真影〔裏書〕

(印判) 仏光寺積 随如(花押)

宝永元年臘月中旬書之

(印判) 三朝高祖真影

近江国蒲生郡南津田村正覚寺
常住物也

(印判) 願主積 照賢

○阿弥陀仏絵像〔裏書〕

積寛如(花押)

明和四年弥生下旬

方便法身尊形

江州蒲生郡南津田村

願主 八日講中

○絵伝(四幅)〔二卷裏書〕

(印判) 仏光寺積 随如(花押)

安永四年晚夏下旬

(印判) 善信聖人伝絵

江州蒲生郡南津田村
正覚寺常住物也
寄進人 惣門徒中

(印判) 願主積 玄意

(印判) 四幅之内 卷

○親鸞絵像〔裏書〕

江 経海(花押)

生郡南

江州蒲 津田

絵四月廿八

正覚寺

(十一) 蓮光寺(近江八幡市大房町、地名は絵系図⑦)

①大房村は村ごとの土地に移住している。戸数は約六五戸、寺院は蓮光寺、金照寺(本願寺派)がある。

②延徳元年(一四八九)浄慶の中興という。昔は道場であった。

慶長八年(一六〇三)に寺号を許されている。所蔵の阿弥陀仏絵像も同時代を下らないと思われる。住職歴代は、中興浄慶・順信(一四・一五代)・了意・智海・智幢・尋道・守道・芳成・直道である。

③法宝物

○阿弥陀仏絵像(一五世紀末〜一六世紀初か、裏書なし)

○絵伝(四幅)「二巻裏書」

文化六末

仏光寺釈随応(花押)

未正月下旬

善信聖人伝絵

奥坊下江州蒲生郡

大房邑蓮光寺什物也

寄進人 淨貞

淨巡

願主釈 智幢

○十字名号(随庸力)

○三朝高祖真影「裏書」

(印判)

仏光寺釈随如(花押)

元禄十二歳閏九月下旬書之

(印判) 三朝高祖真影

江州蒲生郡大房村

蓮光寺什物也

(印判) 願主釈 順信

○上宮太子御影

(十二) 正福寺(近江八幡市牧町、絵系図になし)

①牧町の戸数は約二〇〇戸、寺院は正福寺、乗蓮寺(天台宗真盛派)、願船寺(浄土宗)、浄福寺(木辺派)、檀家は乗蓮寺が最も多く、ついで願船寺、浄福寺は正福寺とほぼ同じくらい、となっている。他に日蓮宗が一カ寺ある。

②由緒不明だが、開基善教が仏堂を創建、寛永八年(一六三二)生福寺の寺号を下付され、元禄八年(一六九五)正福寺と改めたという。阿弥陀仏絵像裏書に寛永十八年(一六四二)とみえていたが、最近新築した。欄間は元のものを使用している。

③法宝物

○阿弥陀仏絵像(江戸時代の火災以後、明治まで門徒に預けていたという)「裏書」

朱印・花押(経海)

寛永十八年^{辛巳}五月十五日

方便法身尊形

江州蒲生下郡小神牧庄生福寺惣仏

○三朝高祖真影「裏書」

(印判)

仏光寺積随如(花押)

宝永六年極月上旬

三朝高祖真影

江州蒲生下郡

牧村正福寺什物也

(印判) 願主 積 真学

○上宮太子御影

○随如寿像「裏書」

宝永六年極月上旬書之

汗谷仏光寺二十世積随如寿像(花押)

生下部小神

江州蒲

願主 真学

(十三) 仏性寺(近江八幡市浅小井町、地名は絵系図④)

①浅小井村は約一六八戸、寺院は仏性寺、本福寺(天台宗)、正寿院(浄土宗)、ほかに日蓮宗の檀家が二戸、その他一〇戸、浄光寺(天台宗)は村持ちで檀家はない。

②由緒は不明、文禄四年(一五九五)浅小井城廃城ののち一寺を

建立、仏立禅寺と号したが、延享二年(二七四五)仏光寺に転じたという。歴代住職は四代前までしかわかっていない。現在で十二世という。

③法宝物

○三朝高祖真影「裏書」

仏光寺積寛如(花押)

享保十一年四月十三日

三朝高祖真影

奥坊手次江州蒲生郡

浅小井村仏性寺什物

○上宮太子御影「裏書」

仏光寺積寛如(花押)

享保十一年四月十三日

上宮太子御影

寄進人



願主 積



○光明本尊(室町時代、後補あり)

(十四) 長徳寺(蒲生町大字木村、地名は絵系図①⑥)

①木村の戸数は六三〇四戸で長徳寺門徒、ほか浄土宗三戸(元長徳寺門徒)、禅宗一戸である。蒲生町では仏光寺派は一寺のみで、他は浄土宗と禅宗である。

②聖徳太子建立の伝承があるも不明。中興は空円(正安元年没、過去帳裏書)、二世は空範で、謙譲(寛政十四年没、野洲郡中洲村新庄西光寺ヨリ入寺)・慈教・円教・慈聚(以下略)で、現住は六代目と

いう。

③法宝物

○聖徳太子絵像(切って表装を改めている)〔裏書〕

仏光寺積随如(花押)

上宮太子御影

元禄十三年六月下旬 願主積(以下切断)

○三朝高祖真影〔裏書〕

(印判)

仏光寺積 随如(花押)

元禄十三年六月下旬書之

(印判)

三朝高祖真影

江州蒲生郡木村
惣道場長徳寺什物也

(印判)

願主積

○親鸞絵像〔裏書〕

(印判)

仏光寺積 随如(花押)

元禄十三年六月下旬書之

(印判)

江州蒲生郡木村
惣道場長徳寺什物也

江州蒲生郡木村
惣道場長徳寺什物也

願主積

(印判)

願主積

(十五) 光徳寺(神崎郡永源寺町大字政所、地名は絵系図⑧)

①寺院は光徳寺、教宗寺(大谷派)がある。蓼畑に正門寺(無住)

がある。

②惟喬親王勅願所とも、建武年間(二三三四〜三六)の草創と伝えるも不明。元は天台宗。慶長元年(一五九六)に仏光寺に転じた

という。かつては中本寺であったともいわれる。

③法宝物

○聖徳太子絵像〔裏書〕

仏光寺積随如(花押)

元

□ 元禄二年亥八月十日

上宮太子御影

江州愛知郡政所村
光徳寺常住物也

願主 積秀範

寄付 印西

○三朝高祖真影〔裏書〕

仏光寺積随如(花押)

元禄二年八月十日

三朝高祖真影

江州愛知郡政所村
光徳寺常住物也

願主 積秀範

寄付 印西

願主 積秀範

(十六) 光林寺(神崎郡永源寺町大字杠葉尾小字利益畑、地名は絵系図⑧)

①村内で光林寺門徒のほか、永源寺檀家三戸、創価学会が二戸ある。

②寺伝に天元二年(九七九)覚蔵の創建で、天台宗桑実寺派に属

したと伝える。天和三年（一六八三）弁玉の時仏光寺に帰依し、
仏光寺末寺となったという。元は春日神社の宮寺で、百五十年前
にこの地に移った。住職歴代は、住職系図（軸）に

浄楽院積覚藏―積英覚―真誠院積弁玉―積覚応―需光院積覚

瑞―積遊雲―積覚證

南無阿弥陀仏

積玄瑞―積英関―積覚長―嚴浄院積諦順

とみえる。

③法宝物

○三朝高祖真影〔裏書〕

（印判） 隨如
仏光寺積

元禄十五年林鐘第五日

（印判）
三朝高祖真影

近江神崎郡杠葉尾村

光林寺什物也

願主 積玄瑞

○阿弥陀仏絵像〔裏書〕

元和五^巳末
八月廿二日

方便法身尊形

畫工藤衛門尉筆

江州神崎郡杠葉尾惣佛

願主了^{心方}

○絵伝（四幅）〔一卷裏書〕

（印判）
仏光寺積 隨如（花押）

正徳三年八月下旬書之

（印判）
善信聖人伝絵

江州神崎郡杠葉尾村

光林寺什物也

（印判）
願主積 玄瑞

○経海筆十字名号（一幅）

四、むすびにかえて

以上、光明寺絵系図と関連地域寺院についての報告を終えるが、
最後に、若干の問題をあげてむすびにかえたい。

当寺・地域絵系図ともに、絵像は描き継がれており、表情や衣
服もかなりの変化がある。寺絵系図の成立期、書き継ぎ部分の年
代決定、地域別の比較等の検討を待たねばならないが、同時平行
の部分とあきらかに異質な部分があることを指摘しておきたい。
また、絵像の側にある書き込みは、法名と年月日、在所、続柄と
は同筆のものと同筆の部分もあるかに思われる。年月日はおそら
く没年とみてよいため、絵系図に入った時点で書かれていなかっ
たのかもしれない。ただし、時代が下ると、「逆修」・「イキケ

イツ」などの記載があり、これらは生前に描かれ、のちに没年を記入したものであって、すでに絵過去帳化していたことを思わせる。

次に、絵系図にみえる地域の寺院と光明寺との関係である。調査寺院中、開基は他宗から転じた寺院と江戸時代開基を別にして、常信寺・円覚寺・栄勝寺などのように、戦国期から江戸時代初期に道場となっており、戦国期と思われる「開基仏」または「お惣仏」と呼ぶ阿弥陀仏絵像を所蔵する寺もある。中世の開基伝承をもつ寺院を含めて、所蔵の絵伝は時代が下るが、上宮太子御影・三朝高祖真影はいずれも元禄年間に下付されており、寺院の基礎を確立したのは、元禄年間であったと考えられる。

とくに注意されるのは、大願寺・蓮光寺・仏性寺の三カ寺の場合、三朝高祖真影または絵伝裏書に「奥坊下」・「奥坊手次」とみえることである。また、「御影堂作事之使日記」に奥坊分として、浅小井・政所谷の地名がみえる。光明寺は奥坊（教音院）につらなる寺院であった。おそらく、かつては光明寺以下、諸道場が奥坊の管轄下にあったかと考えられる。

ただし、先にもふれたように、絵系図にみえる法名と、各寺院の住職（道場主）・門徒との関係は、わずかに須恵の栄勝寺の開基が道法であり、絵系図中に「道」の一字を冠する法名が存在すること、「僧尾」に現存の寺名がみえること以外、ほとんど見いだせない。在地に道場ができるのは、絵系図に描かれた光明寺門

徒の増加によってであるが、道場の活動によって逆に光明寺との関係を失ってしまったのかもしれない。

中近世における絵系図の宗教史的位置付け、民衆絵画史としての絵系図論を構築するの必要を感じつつ、多くの疑問と課題を残すが、すべては今後の調査・研究にゆだねたい。

註

- (1) 平松令三氏「絵系図の成立について」(『仏教史学研究』二四―一、一九八一年、のち『真宗史論攷』同朋舎出版、一九八八に再録)。
- (2) 絵系図については、向井芳彦氏「真宗絵系図雑攷」(『史林』二〇一―一、一九三五、のち『親鸞大系』第六巻、法蔵館、一九八九に再録)・佐々木篤祐氏「仏光寺史の研究」(仏光寺、一九七三)・福尾猛市郎氏「明光派教団と絵系図序題編年の研究」(井川定慶博士喜寿記念『日本文化と浄土教論攷』所収、一九七四)・「備後南部における初期明光派真宗教団に関する新知見」(小倉豊文編『地域社会と宗教の史的的研究』所収、柳原書店、一九六三、のち『親鸞大系』第六巻に再録)・柴田実氏「伊庭妙楽寺の絵系図と系図まいり」(井川定慶博士喜寿記念『日本文化と浄土教論攷』所収、のち柴田実著作集『日本庶民信仰史』法蔵館、一九八四に再録)、村井康彦氏「絵系図と絵系図まいり」(『日本美術工芸』四一九、一九七三)・「妙楽寺絵系図について」(京都女子学園仏教文化研究所『研究紀要』一六、一九八六)・藤葉性信氏「妙楽寺史」(妙楽寺、一九七七)・堀大慈氏「絵系図の研究」(京都女子学園仏教文化研究所『研究紀要』一四・一五、一九八四・八五)・「光明本尊と『絵系

- 図」試論「絵系図の研究」(同一六、一九八六)・平松令三氏前掲論文のほか『真宗史料集成』第四卷「専修寺・諸派」解説および翻刻(同朋舎出版、一九八二)・『真宗重宝聚英』第十卷「総説・絵系図」(信仰の造形的研究委員会編、同朋舎出版、一九八八)・神田千里氏「仏光寺派の名帳と絵系図」(『月刊百科』二九八、一九八七)・『一向一揆と真宗信仰』(吉川弘文館、一九九一)・蒲池勢至氏「真宗の民俗性と反民俗性―位牌と御影にみる祖先崇拜観」(『同朋学園仏教文化研究所紀要』五、一九八三、のち『真宗と民俗信仰』吉川弘文館、一九九三に再録)・拙稿「絵系図にみる「家」の祭祀」(『月刊百科』二八八、一九八六、日本歴史民俗論集『家と村の儀礼』吉川弘文館・一九九三に再録、『真宗重宝聚英』第十卷に「絵系図まいると先祖祭祀」として補訂収録)などがある。
- (3) 『真宗重宝聚英』に一部紹介されたほか、柴田・村井・蒲池氏・拙稿前掲論文。主として妙楽寺絵系図が中心であるが、拙稿では光源寺・光福寺絵系図についても言及している。
- (4) 棟札は縦九〇、七センチ、横二五、三センチで裏に「南無阿弥陀仏」と書いている。
- (5) 平松氏『真宗重宝聚英』十巻、光明寺絵系図解説。
- (6) 佐々木氏前掲書参照。
- (7) 『真宗史料集成』第四卷「専修寺・諸派」。
- (8) 『近江愛知郡志』。
- (9) 『兵庫泉美養郡誌』。
- (10) 由緒については渋谷有敬編『仏光寺辞典』(仏光寺、一九八四)・『近江蒲生郡志』・『近江愛知郡志』・『竜王町史』・『近江八幡町史』・深谷弘典氏『永源寺町の歴史探訪』(近江文化社、一九九三)・竜王町仏教会『寺院要覧』(一九八三)等を参照した。

〔追記〕本研究にあたって、仏光寺本山、調査を快く許可し、ご教示を得た各寺院、また、絵系図研究会の諸兄のご助力とご教示に厚く御礼申し上げます。なお、本研究は相愛大学特別研究助成、文部省科学研究費の成果の一部である。